

# 算数科における複数指導体制について

学力向上P T

## 1, 基本的な考え

1・2年生はT T指導、3年生から少人数指導を行う。特に、「数と計算」「数量関係」領域では習熟度別指導、その他の領域では等質による少人数指導を行う。その際、グループや指導者が固定しないように配慮する。2年生に関しては3学期を目安に少人数指導に移行していく。

## 2, 少人数指導について

### (1) 少人数指導のねらい

少人数指導では、「学級数をこえる学習集団を弾力的に編成し、決め細やかな指導を行い、基礎学力を定着させる」ことをねらっている。つまり、少人数の学習集団を作り、個に応じた学習を進め、基礎学力を定着・維持・向上させるということである。

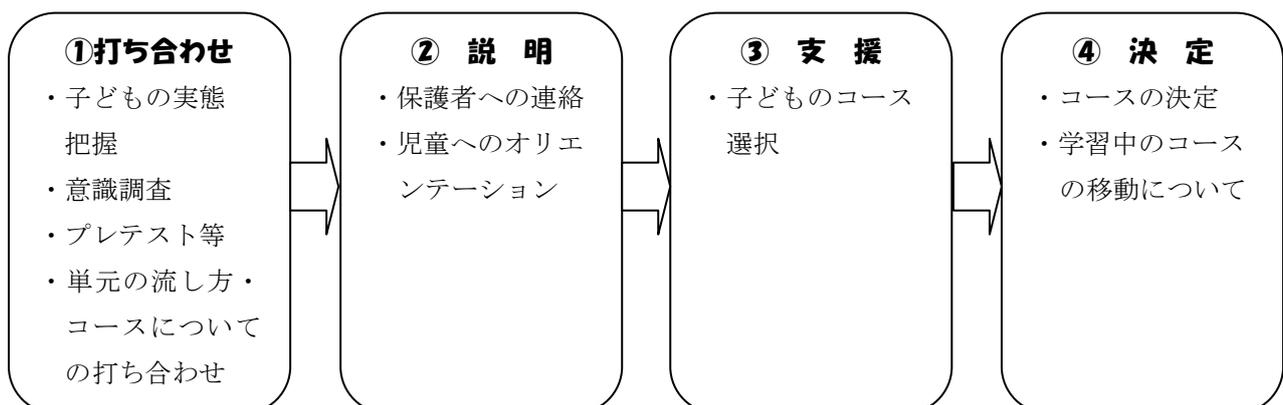
#### ①等質による少人数指導

- ・学習指導にじっくり取り組ませ、担任が子ども一人あたりに関わる援助の質を高め、時間を多くする。学習集団の人数も構成メンバーも概ね均等にする。担任ときめ担のどちらがT 1で行うかは、各学年で考える。

#### ②習熟度別指導

- ・習熟の程度に応じた指導を行う。理解の程度、定着の程度、考える力の程度など、習熟の程度に応じて学習集団を編成し、効果的に指導を進める。学習集団の人数は違ってもかまわない（低位のクラスは10人を越えないくらいとする）。5・6年生のT 3に関しては、低位のクラスの中でも支援を必要とする子どもを中心にあたる。

### (2) コース決定までの流れ



## ②説明に関して

### ○保護者への連絡

学校からの手紙で少人数指導（習熟度別指導）を行うことの連絡と、具体的なコース分けの説明を行い、理解を得る。また、学年ごとの詳細は学級通信などを使ってお知らせする。途中の経過や成果も通信などで知らせるとよい。特に3年生は今年度より本格的実施となるので、

### ○児童へのオリエンテーション

オリエンテーションでは、少人数学習について簡単に知らせ、コース名・それぞれの学習スタイルの説明などを行う。また、その際に優越感や劣等感が子どもの心を阻害しまいように十分配慮する。また、この段階では、それぞれのコースの担当の教師は発表しない。（子どもが担当教師でコースを選ばないようにするため）

## (3) その他

### ①教室について

- ・ 3・4年生…各自の教室と3年学習室
- ・ 5・6年生…各自の教室と5年学習室（6年学習室は外国語活動などで使用）

②定規（1m・三角定規2種）・分度器・コンパスはそれぞれの学習室に配備している。  
要確認。